

# センターだより

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

特別号 NO. VI-⑦

平成29(2017)年2月7日発行

吹田市立教育センター  
大阪府吹田市出口町2-1

TEL 06-6388-1455

FAX 06-6337-5412

メール s-educ@suita.ed.jp

今回の特別号は、吹田市のスーパーティーチャーである、『指導教諭（指導養護教諭を含む）』についての紹介です。センターだより特別号における指導教諭特集は平成21年度から始まり、今回で7号目になります。

現在、吹田市では、小学校12名、中学校13名、計25名の指導教諭の先生方が吹田市の指導力向上のために活躍されています。

## スーパーティーチャー 平成28年度 吹田市の指導教諭

勤務校	名前	教科・領域	勤務校	名前	教科・領域
吹田東小学校	小木 小百合 ●	学校保健	第一中学校	池田 広恵	外国語活動
千里新田小学校	三木 信次	学級経営	南千里中学校	神崎 由紀	英語教育
佐井寺小学校	贅 宏恵 ●	学校保健	南千里中学校	坪倉 光恵 ●	学校保健
片山小学校	川中 秀夫	体育教育	豊津中学校	山口 正剛	特別支援教育
片山小学校	今村 美加	音楽教育	豊津西中学校	池田 ゆう子	英語教育
山田第一小学校	齊藤 禎	図工教育	西山田中学校	伊藤 直美	国際理解教育
北山田小学校	石丸 弘美	図工教育	山田東中学校	吉田 昌司	国際理解教育
千里丘北小学校	大倉 砂織	音楽教育	高野台中学校	榎 貴恵	音楽教育
佐竹台小学校	山本 圭司	特別活動	青山台中学校	野本 玲子	道德教育
津雲台小学校	井上 良太	体育教育	竹見台中学校	池田 愛	国際理解教育
桃山台小学校	有岡 葉子	児童生徒理解	竹見台中学校	平岡 弘子	国語教育
千里たけみ小学校	川向 博子	特別支援教育	竹見台中学校	藤田 幸	英語教育
●指導養護教諭			古江台中学校	永田 和浩	理科教育

### そもそも指導教諭の役割とは・・・？

『指導教諭は、児童の教育をつかさどり、並びに教諭その他の職員に対して、教育指導の改善及び充実のために必要な指導及び助言を行う。』  
(学校教育法)

『指導教諭は、優れた指導力を生かして、示範授業を行うことなどにより、指導方法の改革に力を発揮することが期待されており、平成26年4月現在、67都道府県・指定都市教育委員会のうち、23教育委員会で設置されており、配置人数は、1,873人である。今後、「アクティブ・ラーニング」の視点を踏まえた不断の授業方法の見直しによる授業改善を進める上では、指導教諭は、大きな役割を果たすことが期待されている。』  
(文部科学省ホームページより抜粋)

この役割を踏まえ、吹田市では、以下のような場面で活躍いただいています。

#### 《吹田市における指導教諭の活動例》

- ①勤務校及び中学校ブロックでの自分自身の授業の積極的な公開
- ②勤務校における公開授業への指導・助言
- ③勤務校及び市内各学校の教員に対する授業改善等の指導
- ④「初任者研修」・「10年経験者研修」での示範授業・指導・助言
- ⑤「ステップアップ研修」受講者の授業実践に対する指導・助言・示範授業
- ⑥教育センターの調査研究グループの研究員
- ⑦教育センターの研修の講師
- ⑧若手教職員への指導的役割
- ⑨小学校・中学校への出張授業、あるいは巡回相談

今回は、今年度任用された、3名の指導教諭の先生方の実践を紹介します。

# 吹田市立片山小学校（音楽教育）今村 美加 先生



『ずばり、音楽がもつかってなんでしょう？』

自分の思いをこめて歌い、演奏する時間の中で、仲間とぶつかりながらも磨き合い、つながることができること。その音楽に触れるたびに思い出し励ましてくれる。音楽は、自分の心の支えになるものです。

『先生にとって恩師という存在は？』

岐路といえるとき、いつも私を導いてくれる人がいました。幼い頃、音楽で育ててくれた人。基礎を学ぶべきだと両親に助言してくれた人。才を見抜き、歌唱のスキルを磨くべきだと助言してくれた人……。その中の一人が欠けても今の自分はいません。出会った全ての人々が恩師です。



『初任期の今村先生は？』

教える術を何も持たない状況からのスタート。とにかく指導書を読みました。それと、子どもと触れ合う時間を大切にしました。授業を支えるのは、子どもとのコミュニケーションだから。

『子どもとの“コミュニケーション”について印象に残るエピソードを教えてください。』

所属していた学校で、手話を学んだ経験です。手話は、指揮者として前に立つときにも思いを伝える表現ツールになります。でも、一番の学びは、子どもたちと一緒に手話を学び触れ合う中で、自分が当前だと思っていた世界が実はそうでなく、いろんな個性と壁を持つ子どもたちがいて、対応していかなければならないことです。子どもの苦手意識に目を向けた、授業づくりの大切さを子どもが教えてくれました。



『授業で達成感を感じる時は？』

できないことから始まるのが音楽。苦手意識を与えないように努力しています。「え？授業もう終わり？」と音楽の苦手な児童が授業後につぶやいてくれた瞬間の達成感は大いです。ただ、音楽の力は、音楽の授業だけで高めるのは難しいです。音楽は他教科とのつながりが深い科目。歌詞の理解（国語）、音符や休符（算数）、鑑賞と歴史（社会）、演奏と表現（体育）。音楽の力は、学校の学習活動全てで高まるのです。



『大切にしていること、ルーティンはありますか？』

〇〇年前の教育実習記録を読むことです。がむしゃらだった頃を振り返ることができる魔法の記録。勉強しよう！指導しよう！と素直で前向きだった自分を見つめることで、学び続ける力を与えてくれます。

『最後に、若手の先生に向けてメッセージをお願いします。』

**先輩の教室、授業を観に行っていますか？**

授業の進め方はもちろん、掲示の仕方や教室の雰囲気など学べるものが沢山あります。また、子どもの席から見える先生と自分を重ねることで、子どもたちが自分の姿を普段どう見ているのかを知ることができます。

**年度末の子ども姿を想像していますか？**

こうなって欲しい。ここまでは出来るようにさせたい。必ず目標を定めることが大切です。私にとって、音楽の授業がクラスでの子どもたちの成長につながるが一番の『宝』。そのために、私はよく、「初めてのことは、出来なくて当たり前。出来なかったことや間違いに気付くことが学習の始まり。出来るようになるよ！」という言葉を送っています。そして、目標に近づいたときに褒める！達成できたときは一緒に喜び！子どもと一緒に教師である私自身も成長するために大切なことだと考えています。

**最後に恩師の言葉を贈ります。**

「音楽は花ばかり咲かせるのではなく、根をしっかりと育てること。まずは、基本を学ぶこと。伸び悩む時があっても必ず根が育っている。見えない所も成長している。しっかりした根であれば、大きな花、数多い花、もちろん色鮮やかな花を咲かすことができる。そして大切なことは、沢山の文化を知ること。出会い、感じること。体験すること。」自分自身にも子どもたちにも同じこと。学び続けていきたいです。



# 吹田市立千里丘北小学校（音楽教育）大倉 砂織 先生



『千里丘北小学校の開校から二年が過ぎようとしていますね。』

そうですね。開校したときは、全ての教職員が初顔合わせで、児童の様子もほとんど誰も知らない状態からのスタートでした。

『そんな中で大倉先生が大切にされたことは何ですか？』

“声かけ”です。何よりもまず、人の心の状態をつかむ努力をすること。その上で、相手の心に合った言葉かけをすることです。

『つながるためには、相手を知る努力をすることからということですね。』

そうです。もう一つは、その人の“強み”を見つけることです。どんな人にも強みと弱みはあります。私は弱みに焦点を当てるより、その人の強みを見つけて伸ばしていくことを大切にしています。教職員の一人ひとりの心が前向きになることができこそ、一致団結できるものだと考えているからです。

『音楽の指導で難しいと感じるのはどんなときですか？』

壁を乗り越えていく経験が児童の心を成長させ、視野を広げます。だからこそ、児童を成長させるための『がんばれば乗り越えられる壁』を考え設定することが楽しくもあり、一番難しいことだと思います。

『では、音楽は素晴らしいと最も感じる瞬間はどんなときですか？』

なによりも、成長していく児童の姿を見ることです。日々の学習を共にする中で、一緒に壁を乗り越えられたときの子どもたちの成長。私が一番嬉しく感じる瞬間です。ただ、壁に立ち向かうための、個々に合った指導方法の工夫が必要です。音楽が不得手な児童には、できたときに褒める。あきらめず繰り返し練習を一緒にすることです。苦手意識から楽しむ意識へ変化させる指導が大切です。音楽が得意な児童は、思う存分練習、どんどん表現させます。できるようになったことを周りの子に教えに行く場面も設定します。中には、音楽が大好きになって、宝塚歌劇団のトップスターになった子がいます！

でも、最も大切にしていることは、心のサポートです。誰が何に困っているのか。今、何にチャレンジしようとしているのかをとらえることです。そして、個々の学びの過程でのがんばりを見取り、受止め、言葉を送ることが大切なんです。

『個に応じるためには、やはり目の前の存在の心を知り、支えることが大切なんです。最後に、若手の先生へのメッセージをお聞かせください。』

音楽専科として大切にしていることは、やはり教職員とのコミュニケーションです。

音楽会をはじめ、入学式や卒業式など様々な行事を企画、運営するとき、他の先生方と打ち合わせをし、自分の思いを伝えていかなければなりません。ただし、思いを受け止めてもらうためには、普段のコミュニケーションがとても大切になってきます。同じ職場で仕事をしているのですから、どの先生とも同じ心の距離感を持って接するように心がけてほしいです。そうすることで共に働く仲間との信頼関係や協力関係が生まれます。そして、自分の仕事もやりやすくなってきます。

もう一つ伝えたいことは、趣味を持つことです。仕事と違う世界を持つことで、気分の切り替えができ、たとえ仕事で煮詰まることがあっても、角度を変えて見つめ直せることもあります。私は趣味で合唱をしていますが、仲間と思い切り歌える喜びを感じたり、オーケストラのメンバーと楽器の話をしたり、指揮者の音楽に対する情熱に背筋がピンと伸びたりして、大いに刺激を受けています。趣味は気分転換ができるとともに、仕事に生かせる様々なヒントを得ることもあります。私たちの仕事は、子どもを育てること。子どもの成長を願いながら多角的な視野を持って教育に努めていきましょう。



# 吹田市立第一中学校（外国語活動）池田 広恵 先生



『池田先生が先生の道を選んだのはなぜですか？』

中学2年生の時の担任が英語の先生でした。マイペースな初老の先生で、発音は備後弁なまり。けっして流暢とは言えなかったけど、その先生が大好きでした。先生は、自由な発想を大事にされていたように思います。クラスはとても居心地がよくて、学校が楽しかったのを覚えています。その時、「中学の英語の先生になりたい。」と思いました。

『居心地がよかったのはなぜだったのでしょうか。』

先生は、生徒を否定しない方でした。「きみたちのままでいいんだ。」そんな言葉と受容的な姿が生徒に「味方なんだな。」という安心を与えてくれていたのだと思います。



『これまで、苦労したこと、達成感を感じた経験を教えてください。』

苦労したことも達成感を感じたのも、人間関係の中です。クラスがうまくいかなくて、毎日憂鬱な気持ちで教室の扉を開けたことも幾度となくあります。そんな時でも、生徒の本音が聞けたり、生徒同士が本音で話せる場面を見ることができ、つながりを感じられることができたときには、一番達成感があります。

『つながりを大切にするために努力されていることはなんですか？』

やっぱり、生徒一人ひとりの気持ちを大切にしたいと思っています。子どもたち同士の関係が上手くいかないとき、子どもをつなぐ橋渡しの存在になることを心がけています。



『外国語活動の場面においてもつながりを大切にするためにされておられることは？』



楽しそうに活動していたり、あまりしゃべらない子が友達と話しているのを見ると「英語の基本はここにある。」と感じます。外国語活動は人間関係を作っていくことができる1つの手段と考えています。英語という手段をとおして育てたいことは、気持ちを言葉で伝えられる力です。日本語だとどうしても照れくさくなってしまいう言葉でも、英語だから伝えられるときがあります。その経験が日常における感謝や気持ちを伝えるきっかけとなると考えています。また、外国語活動の授業でこだわっていることがあります。学びの振り返りの場面で、友達のいいところを発見し、伝え合う活動を大切にしています。褒められた子どもが喜び、教室の中で居場所を作ることができると考えています。

『最後に、経験年数の少ない先生に向けて伝えたいことを教えてください。』

初めて赴任した学校は、しまなみ海道で有名な島の学校でした。当時、その学校は授業を成立させるのが困難でした。授業が成立しないで落ち込むことが多かったです。そんな中で、いろんな解決方法や「私の授業の時にはちゃんとやっていますよ。」という言葉が聞くと、「自分はダメなんだ。」とさらに後ろ向きになっていきました。そのときの私が求めていたのは『方法』ではなかったのだと思います。

でも、自分の殻にこもっていただけの私を救ってくれたのは、「あなたはそのままがいいんだ。あなたに救われている生徒もいるよ。同じじゃなくていい。誰かに寄り添える人になったらいい。」という同僚の共感と肯定の温かい励ましの言葉でした。自分のスタイルでいいんだと思えて初めて、前向きになることができました。

子どもをピシッとさせないといけないと思って、そうできない自分に嫌悪することもあるかもしれません。当然、子どもの学びと安全のために必要なときはあります。ただ、学校には、いろいろな生徒がいます。みんなが同じスタイルで生徒に向き合わなくてもいいと思います。「子どもに寄り添っていきたい。」その気持ちを大事にできれば、どんなスタイルであっても、救われる子がいると思います。

先生と先生、先生と子ども、どちらの関係においても、まずは、安心と信頼を築くことが必要です。大切なことは、目の前に立つ存在が何に悩み、何を求めているのかをわかろうと寄り添う姿勢を大切にするということです。しんどい時にしんどいって当たり前と言えること、それを聴いてあげることです。そんな受容と共感から、「一人じゃない」って思える安心と信頼を持つことができ、それが前に向かう力を生み出すのです。

